

S-face

SFC makes the future through researches

地域を深く知ることで 激動の世界を読み解く

廣瀬 陽子

VOL.

013

/100

2016.Aug 発行

和の色:空色



近年の国際問題の“震源” コーカサス地域を研究

私は、旧ソ連地域、とりわけコーカサス諸国をめぐる国際政治を専門分野としています。コーカサス諸国とは、カスピ海と黒海に挟まれ、ロシア、トルコ、イランと隣接する南コーカサス地方の、アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージアの3国を指します。かつては旧ソ連の構成国でしたが、ソ連崩壊後の1991年に独立しました。

コーカサス地域では、多様な民族が入り組んで暮らしてきました。また、欧州、アジア、ロシア、中東を結ぶ地政学的に重要な位置にあることから、“ハートランド”と呼ばれてきました。

20世紀以降、カスピ海沿岸部で石油・天然ガスの生産がさかになると、南コーカサス地方は石油・天然ガスの産出国として、そしてカスピ海沿岸部の石油・ガスを欧州へ届ける“輸送回廊”として国際的に注目を集めることとなります。現在では、こうした地政学的重要性から、ロシアや欧米諸国がその影響力を保持しようと、当地の紛争(ナゴルノ・カラバフおよび南オセチア・アブハジアを巡る問題)や政治・経済に深く介入し、混乱の度合いは極めて厳しいものとなっています。

実際、近年の国際政治における“震源”の多くが、この領域に見られています。こうした“地域的重要性”も、私の研究の大きなインセンティブです。



コーカサス
地域

未承認国家問題を通じ “混迷の世界”を読み解く

ウクライナ危機、ロシアによるクリミア編入問題など、いま世界は“国”をめぐる問題で揺れ動いています。これは、竹島や尖閣諸島の問題を抱える私たち日本人にとっても、決して“対岸の火事”ではありません。このように不安定化した世界を読み解く上で重要なカギを握るのが、コンボや北キプロス、南オセチア……といった「未承認国家」の存在です。

未承認国家とは、ひと言で言えば“主権国家としての宣言をし、体裁を整えながらも、国際的な国家承認を得ていない国”のことです。私は、この未承認国家の存在から国際問題の原点を探ろうと、2014年8月に『未承認国家と覇権なき世界』(NHKブックス)を出版しました。

旧ソ連、ユーゴスラヴィアの解体直後に、相対的に多くの未承認国家が誕生したように、未承認国家は、ある国が混乱状況にあったり、破綻国家と称される状況にあったりする場合に生まれる傾向があります。周辺国は地域の平和的環境と安定の醸成に努めるとともに、当該地域をよく知る仲介者として、中立的に和平を導いていく必要があるでしょう。また大国は、自国の利益のために未承認国家を利用するのではなく、中立的に和平の仲介に乗り出すべきだと考えています。

「世界を俯瞰する視点」を持つことが 地域研究を意義深いものにする

ウクライナ危機、ロシアによるクリミア編入問題など、いま世界は“国”をめぐる問題で揺れ動いています。

こうした問題の根幹にあるのは、「主権国家の主権尊重、領土保全」と「民族の自決権」という“2つの国際法の原則”のジレンマです。

世界各地で起こっている地域紛争を、限られた情報に基づいて判断することは、問題の本質を見誤るという重大なリスクをはらんでいます。

廣瀬陽子教授の研究は、旧来の地域研究の枠にとどまることなく、国際政治学の視点から激動の現代社会を見据えています。

Unrecognized State

未承認国家の研究



“主権国家としての宣言をしながらも、国際的な国家承認を得ていない国”である未承認国家について研究。アゼルバイジャンはひとつの重要拠点であり、研究協力や国際会議などへの参加も頻繁に行っている。

Intelligence Assessment

情報の見極め



日本におけるロシアの印象があまり良くないのは、偏りのある報道や過去のイメージに起因している。そうした実状と実態のミスマッチを防ぐには、情報を見極め、正しく分析して「等身大のロシアを受け止める」ことが求められる。

The Arctic

北極圏のプロジェクト



多くの国の利害が絡み、新しい国際政治の課題となっている北極圏問題に関するプロジェクトに着手。ロシアも深く関わっているこの問題について各方面に発信し、国際的関心を高めようとしている。

地域研究の成果を 学術的文脈に位置づける

現在では、世界各地の地域研究がさかに行われていきます。その背景には、東西冷戦の終結により、従来は容易に足を踏み入れることができなかった地域での調査が可能になったこと、イデオロギー・バイアス^(※)の減少により“真の地域研究”が可能となったことなど、いくつかの理由があるでしょう。

しかし、地域研究は学界の中でいまだ“浮いている”感が否めません。地域研究者は「研究対象地域の特殊性」を主張するあまり、一方的な情報発信に終始してしまう傾向が見られるからです。確かに、ある地域を詳細に研究すればするほど、その地域の特殊性が際立つため、そうした傾向が強まることは当然かもしれません。しかし、それでは研究者の自己満足に過ぎず、学界における研究の発展は望めません。

そこで、私の研究室では「地域研究とアカデミック・ディシプリンの対話と融合」を模索することを通じ、地域研究をアカデミックな文脈に应用できるような研究を行っています。つまり、地域研究を「特定地域の課題検討」だけで完結させるのではなく、学術的な文脈の中で生かせるようにすることで、他地域の専門家や理論研究者との対話を可能にし、学術的貢献につなげることを目指しているのです。

※政治・社会思想の偏り、先入観



Profile 廣瀬 陽子

慶應義塾大学総合政策学部教授。東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学。2000年、国連大学秋野フェローとしてアゼルバイジャンで在外研究。専門は国際政治、旧ソ連地域研究、紛争・平和研究。博士(政策・メディア)。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp